

祇園祭山鉾町 山伏山町の古文書調査

竹中 友里代

1. 調査に至る経過

公益財団法人祇園祭山鉾連合会による祇園祭山鉾鋸金具調査は、2015年度から2017年度に成果報告が三冊分冊で刊行され、裏付となる史料翻刻と論考を担当した。史料は京都市歴史資料館の写真版の紙焼きを利用した。市史編纂事業で写真版古文書の目録があり、文書の写真版が公開されている。内容による分類目録からは、金具関係文書の選定は簡便であったが、翻刻史料掲載には、当時のモノクロの写真版では、判読の精度は望めず、原本確認が必要であった。そこで、連合会を通じて各山鉾町に該当の古文書調査を依頼した。例年祭で使用する懸装品等の諸道具に対して、必要のないかぎり古文書を出す機会はほとんどない。編纂事業では保存管理は所蔵者の各町に任せ、写真版利用のために作成された目録は、目録所載の文書名と原本の表題が相違し、作成者や宛所は表題に含まれることもあるが、印の有無や一紙・冊子など文書の形態が記録されていない。現地で即座に文書を同定することは難しく、写真版のコピーを照らし合わせて探すこととした。それでも卷子や掛軸に装丁を変えて別置されていることもあり、古文書は大切に保管され、文書点数が豊富な町に限って容易には原本にたどりつけないこともあった。1994～1996年国立史料館による文書調査が行われた六角町文書のように、大学などの研究機関が個別に調査に入らない限り、各町の古文書保管状況の確認はされていないようであった。所在不明の山鉾町もあり、関係者には古文書を再認識していただく機会となった。

山伏山町へは、2015年10月に調査を依頼したが、市史編纂から数十年を経て、世代交代とともに古文書の存在、保管場所が引き継がれなくなっていた。翌2016年2月に山鉾連合会と京都市文化財保護課の担当者とともに会所を訪問し、土蔵から古文書の木箱と段ボールは確認できたが、この時翻刻対象の文書は見いだせず、やむなく不鮮明な写真版による翻刻を掲載した。

2. 山伏山町文書の調査

確認できた木箱は、市史編纂の調査を経てもなお古文書の原状がよく保存され、「譲り状入」「神事箱」と墨書され、山伏山町の土地屋敷地の売買証文や借家請状などの典型的な町文書は、学部生の崩し字解読と目録のデータ化・研究材料など文化情報学実習の教材に好適と判断した。そのうえ文書の借用手続きや報告を兼ねて現地に足を運び、祭礼や町の方々に直に接する機会にもなる。山伏山保存会に借用の趣旨をご理解いただき、承諾を得た。改めて2016年3月29日文書の借用に訪問し、山鉾町の現地見学を兼ねて学部生3名・院生2名が参加した。木箱2個（目録箱1・2）と段ボール2個（箱3・4）を土蔵から搬出、大学に持ち帰った。訪問時には、借用文書とは別に地蔵尊縁起（卷子）を拝見、写真撮影した。

山伏山町の古文書調査は、2016年4月から3回生の古文書の整理実習を大学院生が指導し、現状の記録・目録採取・写真撮影等のそれぞれの作業の段取りを学生自ら考え進める形で行ってきた。

同年7月12日山伏山町のご理解により、2・3回生・院生が祇園祭の準備の様子を見学し、土蔵の荷物が運び出された状態で、再度古文書の探索にあたった。それまでぎっしり詰まった祭礼道具で奥まで入れなかった土蔵の二階奥に、金具が取り付けられた頑丈な箆筒が現れた。箆筒内にはまとまった古文書が、また天井裏には祈祷札等が確認され、箆筒・引出し等の採寸・調書を取り、収納場所別に古文書を取り出し、大学に搬入、借用して追加調査の対象

とした。

毎年8月23日町内の方々が集まる地蔵盆の場を借りて、各学年の院生が報告を行ってきた。2016年8月には「円地蔵尊縁起」1巻について、収納箱記録・翻刻・語句解説・現代語訳等をそなえた報告書（豊田論考参照）を提出し、当日はA4で1枚にまとめた概要を配布して説明した。2016年3月に借用した木箱2箱分と段ボール箱の2箱分の古文書については、2017・2018年8月に中間報告を行い、整理が終了した分は順次返却した。また2016年7月土蔵の天井裏から発見された木札なども、2017年に報告、返却している。授業に参加した学生は、山伏山町の地蔵盆見学を楽しみにしており、2019年は中間報告はなかったものの、見学に参加した学生は、現地で出会った銘文資料の記録作成にあたっている（19頁参照）。

3. パネル展示

2020年3月の年度末に借用分一括返却に向けて目録のデータの精度を高めるべく作業中であった。また、さらにその成果を一般に公開しようと、京都府立歴史館・京都学ラウンジにて、パネル展示を企画した。調査の概要、古文書の整理方法から浄蔵貴所と聖護院、^{ゆめあわせ}円地蔵、蒟蒻版、七条仏師等のテーマで解説した。とりわけ今回の解説には、三組学務委員からの通達や地方税納入領収書等の近代の小さな紙片に至るまでデータ化することで、より具体的な町の営みが明らかになった。各山鉾町の古文書原本の目録化と公開による保存と幅広い活用を期待できるものであった。

2020年3月に返却予定であったが、2月頃から新型コロナウイルス流行により、人との接触を避ける事態となり、返却にかかわる作業を一時中断している。本報告では、これまでの山伏山町古文書総点数1616点の全体が把握できる目録とともに調査成果を報告するものである。2020年祇園祭山鉾巡行は中止となったが、ウィルスが終息し、再び町内会所で、ご報告できることを願う。



図1 山伏山町会所土蔵前
平成28年3月29日



図2 文書筆筭確認
平成28年7月12日



図3 資料整理の様子



図4 地蔵尊縁起の調査報告
平成28年8月23日